

SDGs の取組と「ぐるぐるふくい」



衣類の修理を行うリペアカフェ

カーテン端材と海ゴミ
アップサイクルボタンを
使ったキーホルダー作り

Outline

繊維ロスを新たな資源に変え、産官学が協働して資源循環と
“捨てない文化”を広げる官民共創プロジェクト

【背景・経緯】

令和2年7月に「福井県長期ビジョン」を策定し、SDGs（誰一人取り残さない、多様性と包括性のある持続可能な社会）を県政の共通理念に位置付けた。全县一体となってSDGsの推進を図るため、県内企業・自治体・教育機関など計1,418機関が参加する「福井県SDGsパートナーシップ会議」を設置し、官民一体となって持続可能な地域づくりを進めている。

また、県はSDGs推進を担う新たな人材として、SDGsディレクター（県の若手職員）とSDGsコーディネーター（地域おこし協力隊）を配置。この体制が官民共創プロジェクトを支える基盤となっている。（R8.3時点）

【実施方針】

福井県は全国有数の繊維産地であるが、産地特有の大量廃棄問題も抱えている。これを地域資源として捉え直し、従来廃棄されていた生地・衣料を新たな価値として再生するなど、産官学が連携して“捨てない文化”を広げるプロジェクトとして令和6年に立ち上げたのが「ぐるぐるふくい」である。[ぐるぐるふくい | 福井発 マテリアルリサイクル糸「ぐるぐるヤーン」](#)

本取組は、アップサイクルのワークショップなど産官学で連携した体験イベントの開催や、廃材を生かした新素材開発の実証を通じて、地域資源を循環させる仕組みづくりを進めている。企業・消費者の意識変容を促すと同時に、福井の持つ地域資源を活かしたビジネスニーズのマッチングを行うことを目的としている。

Point① 官民共創を動かすSDGsディレクター・SDGsコーディネーター

「ぐるぐるふくい」を支える要となっているのが、SDGsディレクター（県職員）とSDGsコーディネーター（地域おこし協力隊）の存在である。ディレクターは、県民・企業・行政による新たな協働を生み出す司令塔の役割を担い、社会課題の解決に向けた企画立案を行う。一方、コーディネーターは民間での経験を生かし、地域や企業のニーズをつなぐ橋渡し役を担う。このチームメンバーがSDGsパートナーである県内の事業者からの聞き取りなどを行い、連携のニーズやシーズ、解決すべき課題を発掘し、パートナー同士の連携を提案・サポートしている。

Point② 産官学が連携した体験プログラムで消費者の行動変容を促す

本取組の特徴は、行政・企業・大学等が共同で企画する体験プログラムである。アパレルブランドと協業したアップサイクルプロダクトの販売や、服のリペア体験、使われなくなった着物や眠っている生地や廃材などを再利用したアップサイクル体験など、多様な主体がそれぞれの強みを持ち寄ってワークショップ等を実施している。参加者は素材が再び価値を持つプロセスを自ら体験し、“捨てない選択”を生活の中で意識するきっかけとなっている。このような産官学連携による体験プログラムは、県民の行動変容を促すとともに、企業にとっても廃棄素材の新たな活用方法を探る機会となっている。

Point③ “繊維 to 繊維”を実現する循環型ビジネスモデル実証

ぐるぐるふくいでは、繊維産地ならではの課題である大量の繊維ロスを再び“糸”へ戻す取組として、“繊維to繊維”の循環モデルづくりを進めている。県内で発生するポリエステル系ロスを回収し、マテリアルリサイクル技術によって新たな「混紡糸」として再生し、福井発の再生ブランドの創出を目指すプロジェクトであり、環境省の循環型ビジネスモデル実証事業にも採択された。

県内で生まれた廃材を資源として、産地を越えた多様な企業の協業により高品質な糸へと再生し、福井発の再生ブランドとして市場展開することを目指している。

